

季節の変わり目、早めの暑熱順化が重要



早くも夏本番を思わせる高温の日々が続く。現場では従前以上にリスク管理が重要となっている

A だいぶ暑くなってきたね。ゴールデンウィーク(GW)が明け、現場にファン付きの作業服姿の職人さんたちも目立って来た。ウィーンと回るモーター音、丸く膨らんだ作業着姿は、今や夏の風物詩だ。

B 夏本番はこれからだよ。だけど準備は早めが肝心だ。5月は季節の変わり目で、熱中症には特に気をつけてほしい。

C 暑熱順化の時期だから、身体がまだ暑さに慣れてない。熱中症のリスクが高まるタイミングだね。

D 暑熱順化って何？

C 暑さに体を慣らすこと。人は汗をかくて体を冷やす。だけど冬場はその機能が弱っている。夏本番を前に、意識して汗を流して「もつ熱をため込まなくていいよ」と体に知らせるわけだ。

A 暑さに強いサマーボディーに変えるということだね。

B 表現はさておき、熱中症といえは、安全衛生規則が変わり、昨夏から現場の熱中症対策が強化された。ルールは現場に変化をもたせようのだから。

D この間、広域レンタルの担当者から話を聞いたよ。熱中症対策商品の注文時期は年々早まっていて、「今年はGW前から電話がかかっている」と話していた。

B 最近は通信機能がついたウェアラブル端末をつけ、リアルタイムの生体情報を事務所でも一元管理できるサービスもあるね。

C 気象庁によると、5月から7月の全国の気温は70%の確率で高温になるそうだ。

D 現場には高齢者や外国人労働者が増えている。人体は加齢で暑さを感じにくくなるし、言葉や文化が進えば、体調不良であることがうまく伝わらないケースも出てくる。リスク管理の重要性は一段と増してくる。

進む熱中症対策／インフラ・建設みらい研究会の活動本格化

A ところで、政治団体「インフラ・建設みらい研究会」が本格的に活動を始めた。

B 2024年12月に逝去した足立敏之元参院議員の理念を引き継ぐのはもちろんだけど、次期参院選に向け、職域代表候補を支援することが重要な活動になるだろう。個人会員として、国土交通省OBやゼネコン社員、地域の建設関係者など1000人以上が参加して職域代表をバックアップする。

C 昨年の参院選で立選した見坂茂範氏は、佐藤信秋前参院議員の後任だ。建設業の職域代表は2人送り出しており、足立氏の逝去以来、職域代表1人体制が続く。見坂氏の負担がかなり大きくなっている。次回の参院選では、是が非でも立選が求められる。みらい研究会は、そうしたことを踏まえたものだろう。

D 次の参院選を目指してというのも大きいけれど、もっと重要なのは、「職域代表議員を持続的に支える政治基盤となる」とを旨とする。職域代表はこれまで国交省のOBが出身してきた。業界挙げて立選を集めてきたけど、「議員は落ちたら『ただの人』」という言葉もあるとおり、万に一つもあつてはならないがもし仮に落選という事態になった場合のことを考えると、非常に不安定な立場だ。

B 国交省を退官した方々は多方面で活躍しているが、不安定な立場なままでは、職域代表になかなか望んで手を挙げる人がいなくなってしまうという懸念の声が以前からあったことは確かだ。家族の理解を得るのも難しくなりかねない。その意味で、「持続的に支える政治基盤」という役割が期待されていると考えて間違いないだろう。

D 職域代表はなくてはならない存在だからこそ、重要な団体になるね。

職域代表を支え持続的な政治基盤に

建設通信新聞 令和8年5月15日

